特集

エル・ライブラリーのアーカイブズ
――収集から活用まで

谷　合　佳代子
（公益財団法人大阪社会運動協会エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館））

エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）で館長兼雑用係をしております、谷合と申します。うちは本当に小さなアーカイブズで、お金がないので、常勤職員は私を含めて二人しかいません。そして司書の資格を持っているのは私だけなんです。それで12万冊の資料の面倒を日々見ているという状態で、大変苦労しています。今日もライブラリーは休みじゃないので、館長補佐が一人で頑張って運営しております。

早速ですが、スライド2は一番最近のライブラリーの写真で、この前の日曜日にいきなり運び込まれてきた、トラックで積み込まれた資料170箱と、ずた袋数十個分の写真です。ほぼゴミ袋状態ですね。これは何かと言いますと、全日本港湾労働組合という港湾荷役の労働者たちの組合があります。その幹部をしていた方が介護施設に入るということで、ご子息が「何とか引き取ってほしい」と言われたので、運び込まれてきたんです。これが日曜日の話で、今日が土曜日で、まだ7日ですけど、もう大変な状況で、これからどうしようかと。今朝、立岩先生が「資料の寄贈の申し出が今増えてきている」っておっしゃってたので、「そうよね」と思って、急遽この写真を貼っておきました。同情していただいた方にはぜひあとでカンパをいただきたいと思います。

さて、みなさまのお手元には「エル・ライブラリーの概要」というものから始まる資料の束があると思います。概要のところの最初に基本情報が書いてありまして、基本情報と言いながら住所を書くのを忘れていました。大阪市中央区にあります。この概要は説明しませんので、読んでおいてください。資料2はスライドを見ながら簡単に説明させていただきます。

まず最初に、今回の講演依頼がありました時に、「マイノリティ・アーカイブズのワークショップをしたい」という話が美馬先生からございまして。でもうちは労働アーカイブズで、「労働アーカイブズっていうのはマイノリティなのかな？」って自分でもちょっと疑問に思いましたので、今日は問題提起として最初にこれを説明させていただきます。

労働者はもちろんマイノリティではありません。けれども、もう労働組合は今やマイノリティで、組織率が17パーセントぐらいまで落ちています。しかし、労働組合のアーカイブズが始まった頃っていうのが1950年代ぐらいと思うんですけれども、その当時は、組織率って60パーセント近くあったのです。今では考えられませんね。だから公務員の職場とか大企業は組織率ほぼ100、っていう時代がありました。で、今や20パーセント切っているわけですけれども、これも大企業だと100パーセントの組織率を誇る組合はまだいくらでもあります。公務員の職場もかなり組織率高いです。ということは、大部分は中小企業が組織率0ということなんですね。そう考えると、労働組合のアーカイブズもマイノリティなのかもしれない。

しかし今言いましたように、ユニオンショップ制度を敷いているような大企業では100パーセント組織率を誇るような組合もあり、その会社の中でも労組が一定程度の権力を持っています。つまり、労働組合というのは千差万別で、その組合の組織の力というのも全く違います。その組合の組織の力がやっぱり記録を残す力にもつながってくると、いうことを最初に申し上げたいと思います。

続きまして、社会運動アーカイブズについて。エル・ライブラリーは、中心的なアーカイブズが労働組合のものなんですけれども、それ以外に市民運動や平和運動などのアーカイブズもあります。そうしますと、そういったものは果たしてマイノリティなのかどうか、ということを考えてみたい。

それと同時に、もう一つはコストについても考えたい。一体誰がアーカイブズを維持していくのか？　そのコストは誰が払うのか？　なかなかこういったコストということに敏感になる人たちが、研究者には少ないですね。「資料を使えるかな」とか「使いたいな」とか「研究に役に立つかな」とか、そういうことは一所懸命考えてくださる方はほとんどなんですけれども。「じゃあ金、誰が出してるか、気づいてます？」っていうところで、「なかな

かハッとするような提起だ」と言われることもございます。

社会運動アーカイブズというのは色んな所にあるんですけれども、それがそもそも公費なのか、公的な機関が持っているのか、大学も含めてですけど、公的な機関が持っているのか。もしくは完全に民間のものであるのか。で、そこで働いている人たちはボランティアなのか、有償なのかという問題。そういったことに目を向ける必要があるんではないかということを、私の基本的な問題意識としてまず提起させていただきます。

次は、具体的にライブラリーのアーカイブズの話に入っていくわけですけれども、簡単に沿革だけ申し上げておきますと、ちょうど10年、「エル・ライブラリー」という名前でライブラリーを開館してからこの秋で10年経ちました。その前から30年の、そして現在に至るまで40年の法人の歴史がありまして、資料のアーカイビングということだけで言えば40年間資料を集め続けています。そのうちの前半30年間は、大阪府と大阪市の補助金がありました。それが10年前に橋下徹さんが大阪府知事になった時にゼロになりまして、大阪府の委託を受けて運営していた図書館も廃止されました。その時点で持っていた何万点もの資料を散逸させないために、スタッフが身銭を切って、多くの人たちのカンパを集めて、エル・ライブラリーを創設したということでございます。

では、実際どういう資料があるのかということですが、私たちは「MLA融合型図書館」と自称しています。こういう言葉、なかなか耳に馴染みがないと思うんですけれども、MLAという言葉は図書館界やアーカイブズ界の人はご存知と思います。Mはミュージアム（Museum）、Lはライブラリー（Library）、Aはアーカイブズ（Archives）で、この3つの種別の資料を全部持ってるのがエル・ライブラリーです。

ミュージアム資料というのは決して多くはないんですけれども、この100年ぐらい前からの労働関係、労働組合、社会運動関係のモノ資料ですね。ここに写っているのが帽子だったり、記章（バッジ）であったり、労働組合の旗だったりします。何かちょっと汚なそうな帽子があるんですが、何で労働運動に関係があるか。大阪で最初に開かれた100年前のメーデーの時に先頭で指揮をしている総指揮者が被っていた帽子といういわれがございます。ライブラリーですから、当然にも普通に図書館が持っているような図書、雑誌、それから社員研修用のDVDなんかは、こちらは貸し出ししている資料です。そして今日の報告の中心になりますアーカイブズ。ここには単数形でアーカイブと書いていますけれども、文書資料ですね。労働組合や市民団体の内部文書、そういったものがたくさん集積されています。

では、こういったものは、そもそも何で集まってきたかと言いますと、スライド7枚目の写真にある『大阪社会労働運動史』。この、大阪の労働運動史を作るための1次資料が必要だったので集め始めたのが40年前のことです。40年前は当然まだ1巻たりとてできてなかったわけですけれども、現在まで、9巻まで出版してきました。今年から第10巻に向けて編纂作業を開始しています。よくあるパターンで、アーカイブズ、市町村の中でアーカイブズ、文書館、資料館が作られる契機は、その自治体の市史や町史を作るために資料を集めた。で市史や町史が発刊されたら、じゃあ集めた資料はどうするか。最悪の場合は捨てられてしまう。上手くいけば、それをもとにアーカイブズ機関が建てられて、「○○町資料館」みたいなものができます。エル・ライブラリーも同じですね。こういったものを作るために集めた1次資料をもとにして、大阪産業労働資料館というものを立ち上げているわけです。

ここで、改めまして「じゃあアーカイブズって何なんだ？」。この部分の了解事項がないと、共通認識ができませんので、改めて「アーカイブズとは何か」を簡単に定義します。「アーカイブ」は、動詞でもあるわけです。それは「蓄積する」という意味の動詞です。で「アーカイブズ」と言った時には名詞になるんですけれども、大きく二つの意味があって、資料そのもの、コンテンツとそれからそれを入れている器、もしくはそれを入れている機関・団体のことを指しています。辞書的な言い方で言うと、「組織や個人の活動を反映するように生み出され蓄積されるものの集合体、およびそれを保存する場」。つまり、その活動を反映する、活動に伴って生み出され、もしくは集められてきたものという意味で、活動自体を反映しているというのがアーカイブズの第1の定義であると考えて下さい。

さきほど言ったMLAですが、図書館、それから博物館、アーカイブズ。特にアーカイブズの中でもこれは公文書館のことを指すんですけれども、それぞれどういう機能の違いがあり、根拠法としてはどういう法律があるかということをスライド9枚目に一覧表にしています。一番よくみなさんに馴染みのある図書館だと、基本の機能は収集、保存、整理して、閲覧もしくは貸し出しします。博物館の場合は、収集して、保存・育成、展示、利用に供する。でも貸し出しはしません。アーカイブズの

場合は、収集ではなくて移管ですね。組織アーカイブズですから移管されてきます。文書を保存して、一部は展示しますが、基本は閲覧に供する、もちろん貸し出しはしません。そういう機能の違いがあるということです。

それではアーカイブズ機関にはどういうものがあるか（スライド10枚目）。大きく2種類、機関（団体）アーカイブズ、もう一つが収集型アーカイブズです。どういったものがあるでしょう。

日本で一番大きな機関アーカイブズ、国立の唯一の中心的な国立公文書館がございます。大阪府にも公文書館、大阪市にも公文書館があります。全国47都道府県のうち、ほとんどに公文書館があります。この国立公文書館と大阪府公文書館というのは固有名詞です。企業アーカイブズというのは一般名詞ですけれども、企業の中にもきちんとアーカイブズというのはあるはず。また大学にも、特に国立大学はほとんどの所で文科省から作るように言われているはずなんで、近年、大学アーカイブズは増えています。

一方、収集型アーカイブズは、エル・ライブラリーがそうですね。のちほどご発表なさいます、立教大学共生社会研究センター、こちらも収集型アーカイブズ。例えば大原社会問題研究所、これはもう来年で設立100周年、国際的にも有名なアーカイブズですが、こういったところが収集型アーカイブズです。

次に、実際にエル・ライブラリーにどういう資料があるかについては、配布した別紙リスト「資料2　エル・ライブラリー所蔵アーカイブズリスト」をご覧ください。この一覧に書いたのは、組織の統廃合に伴って、どさっと資料が寄贈される例や、個人が寄贈してくださったもののリストを書いています。労働組合のアーカイブズと個人のアーカイブズがあります。この中で社会運動関係のアーカイブズは、個人コレクションの中にあります。

エル・ライブラリーの場合は労働アーカイブズが中心になるんですけれども、何があるかと言いますと、労働組合の記録、これは主に紙の文書ですね。それと電子記録も一部あります。それから映像、写真。ま、旗はモノ資料なんですけれども。それから個人が収集した物の中に、労働組合の機関資料が混じっている場合もあります。じゃあ、どういったものか、ちょっと未整理な状態をお見せするので恥ずかしいんですけれども、スライド12は当法人、大阪社会運動協会・初代理事長が寄贈した資料の一部です。初代理事長というのは大阪総評の議長で、戦後50年分の大阪のローカル組合の資料を収集して、ずっと自宅に蓄積しておられました。大変な数がありまして、だいたい書架延長で200メーター分ぐらいはありました。ありましたというのは、もうかなり圧縮をかけたので今短くなっていますが。ご本人が収集して自分で整理するということされていた方なんですけれども。こういった資料は整理できているものもあればできていないものもあって、こんなふうにですね、箱ごとに入れていて、ここにタイトルを付箋紙に手書きして貼っています。いかにも未整理状態なんです。この写真の奥の方にちらっと見えているのは、全部目録が採れてるので、OPACで検索していただけるような資料です。それとほかには例えばスライド13のこういう個人のノートですね、「雑記帳」とか「ラクガキ関係」と書いてますが、これは滋賀県にありました近江絹糸労働組合の幹部の人が残した組合の文化運動の記録です。こういった手書きのものとかも随分あります。またスライド14はミニコミ類なんですけれども、手書きのガリ版刷りが多いですね。ほとんどが同人誌のようなものばかりです。

こういったものは作成された時は複数存在しているわけです。100とか200部数、印刷されています。今となってはたぶん、あんまり残っていない。こういったものはアーカイブズなのか、コレクションなのかと、いうことを巡って、うちのスタッフの中でも今、論争が起きていまして。「これはコレクションだろう」「アーカイブズじゃないんじゃないの？」「いや、でも個人の活動に伴って収集したものであって、その人の活動を跡付けるものだから、これはアーカイブズだ」というように、内部で論争中であります。アーカイブズなのかコレクションなのか、が決着つかないと、実は目録の採り方が変わってしまうという問題があるんですね。

これらの資料は辻コレクションといって、辻保治さんという人が持っていた資料で、ご本人は1998年に亡くなっています。たとえ生み出された時には複数存在しても、今となってはもうアーカイブズ機関に所有されているのはこれ1点ものになってしまっているという可能性が高い資料です。

さて、ではそういった個人の貴重なコレクション、もしくはアーカイブズはどうやって集まって来るのか。まず一つは労働組合が組織の統廃合に伴って資料を寄贈してくれるケースです。資料の寄贈というのは、当法人資料室の初期の頃はお願いしてたんです、こちらから。「貴重な資料がありましたら、寄贈してください」と。ですから、40年ぐらい前に法人が資料を集め始めた時は「寄贈してください」と色んなところに手紙を書いたり、一斉に文書を発出して、「資料を持ってる人は提供してくだ

さい」って言ったんです。で、こういうコレクションの特徴としましては、ある程度資料が集まってくると、それが雪だるま式に増えてくるんですね。逆に今では、断るのが大変っていうぐらいに「集まってしまう問題」というのが起きてくるんです。こういった時、寄贈される資料のほとんどが、実は本。図書、雑誌とか、「別にうちが持ってなくてもいいのでは」というような、「公共図書館にあるでしょ？」っていうような資料が含まれていたりする。そういったものは最近では全部お断りしています。「1点もの、入手しにくいものしか要りません」と言ってるんです。ただですね、さっきみたいに170箱も資料が一度に来たら、玉石混交な状態だから、玉と石を区別するだけでも何ヶ月もかかるという大変なことになるわけですね。あと現在は、労働組合から機関アーカイブズを継続的に受け入れたりもしています。あともう一つ、四つ目ですが、スタッフ自身が寄贈します。スタッフ自身が色んな社会運動にコミットしているので、そういう自分たちが集めた資料を自分たちのライブラリーに寄贈すると。あとは、あんまりないんですけど、捨ててあるのを拾ってくるということもあります。

次に資料組織論。ここはみなさん困っておられることと思いますが、目録ですね、どうやって採るんだと。「どうやって分類するんですか？」とか。簡単に言うとアーカイブズは「分類しない」っていうのが原則なので、原秩序を保持します。

次にアーカイブズの活用成果です、何と言っても『大阪社会労働運動史』既刊9巻。その他、色んな大学の先生たちに科研費を取ってもらったりして活用していただいています（スライド18）。そういった時の問題は、「アーカイブズ利用の問題と課題」（スライド19）として所蔵機関の問題と利用者側の問題をあげています。どちらもネックになるのはやはり目録です。「どうやってこれを採るんだ？」と。「どうやったらまたその資料の全体像が分かるように提示できるか」。その他の課題は、先ほどから「311まるごとアーカイブズ」でもありましたように、「個人情報やプライバシー情報についてはどうするのか」ということ。あと、何と言っても悩ましい著作権処理の問題。こういったことがあります。著作権の話はのちほどまた、別の先生がお話しされると思いますので、もうここでは触れません。

最後に、「そういった色んなマイノリティ・アーカイブズはどこにあるのか」について、「労働資料リサーチソース」https://sites.google.com/site/rodoshiryokyo/link を紹介します。労働資料協（社会・労働関係資料センター連絡協議会）の前事務局長であった法政大学大原社会問題研究所の若杉隆志さんが作成したリストです。今はわたしが事務局長を継いでいますが、最近リストの手入れをしていないので情報が古いのですが、参考までに。

もう一つ紹介します。小澤かおるさんの博士論文「マイノリティの情報保障」に、性的少数者のMLAがどこにどんなものがあるか、海外の事例、日本の事例というのが記載されています。マイノリティ・アーカイブズはなぜ必要なのかを小澤さんがこの論文に書かれています。第1にそのコミュニティにとって必要だと、第2にコミュニティ以外の人間にとっても必要なんだという、その二つのことが述べられています。これはぜひマイノリティ・アーカイブズとは何かを考える時の大きな問題提起・ヒントとして、捉えておきたいと思います。

今日オーラルヒストリーの話が何回か出ましたので、当館の「労働史オーラルヒストリー」を少しだけ紹介します。

当館WEBサイトに「労働史オーラルヒストリープロジェクト」というページがあって（http://shaunkyo.jp/library/46/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%AB%E3%83%92%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88）、このサイトに飛びますと、いくつか映像をアップしています。この映像は何が特徴かと言うと、ノーカット、ノー編集。言ったこと全部そのまんま2時間なら2時間、ノンストップでずーっと流れます。正直言って、見るのはしんどいです。その文字起こしの情報は画面の横に出ています。場合によっては、喋ったこととテープ起こしがかなり違うっていうケースがあります。

この動画には文献リストとか付けきれてないので、完成はしてないんですけども、こういう生データも出しています。あとはオーラルヒストリーの音源をデジタル化したものを館内で試聴してもらうようにもしています。そういった1次情報を少しずつデジタル化しております。（以上）

エル・ライブラリーのアーカイブズ

——収集から活用まで

公益財団法人大阪社会運動協会
大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）
館　長　　谷合　佳代子
2018.12.1

1

170箱、数十袋。個人宅で保管されていた

2

3

問題提起
「労働アーカイブズはマイノリティ・アーカイブズか」

- 労働者はマイノリティではない。
- 労働組合はいまやマイノリティ。
- 大企業労組は「権力」を持つ。
- 労働組合は千差万別。記録を残す組合は少数派

4

問題提起
「労働アーカイブズはマイノリティ・アーカイブズか」

・社会運動アーカイブズはマイノリティか？

「社会運動アーカイブズのコスト」について考えるべきでは。

- 社会運動アーカイブズは誰が保存運営しているのか
- 公費か私費か
- 有償労働か無償労働か

5

エル・ライブラリーの沿革と概要

（別紙資料１）

- 労働専門図書館
- 2008年10月、「大阪社会運動資料センター」をリニューアルして開館。廃止された「大阪府総合労働情報プラザ」の図書も引き取る
- 公益財団法人大阪社会運動協会（社運協）が設置運営する《私立図書館》
- 一般公開している《公共図書館》
- 市民・労組のカンパとボランティアで維持
- スタッフが身銭を切って運営

6

MLA融合型図書館

7

『大阪社会労働運動史』編纂のための資料を40年にわたって蓄積

8

アーカイブズの定義

- アーカイブ（アーカイブズとも）は、「組織や個人の活動を反映するように生み出され蓄積されるものの集合体、およびそれを保存する場」

「記録資料とその保管庫という二つの意味を持つ」

9

MLAの違いとアーカイブズの種類 ①図書館/博物館/文書館の役割

館種	収集	保存	整理／展示	利用	調査研究	設置根拠法
図書館	○	○	整理	一般の利用に供する	―	図書館法
博物館	○	保管／育成	展示・教育	展示によって利用に供する	○	博物館法
アーカイブズ（文書館）	―	○	展示	閲覧に供する	○	公文書館法

10

MLAの違いとアーカイブズの種類
②アーカイブズの種類

◆機関アーカイブズの例
国立公文書館
大阪府公文書館
企業アーカイブズ
大学アーカイブズ
◆収集型アーカイブズの例
エル・ライブラリー
立教大学共生社会研究センター
法政大学大原社会問題研究所

11

労働アーカイブズ

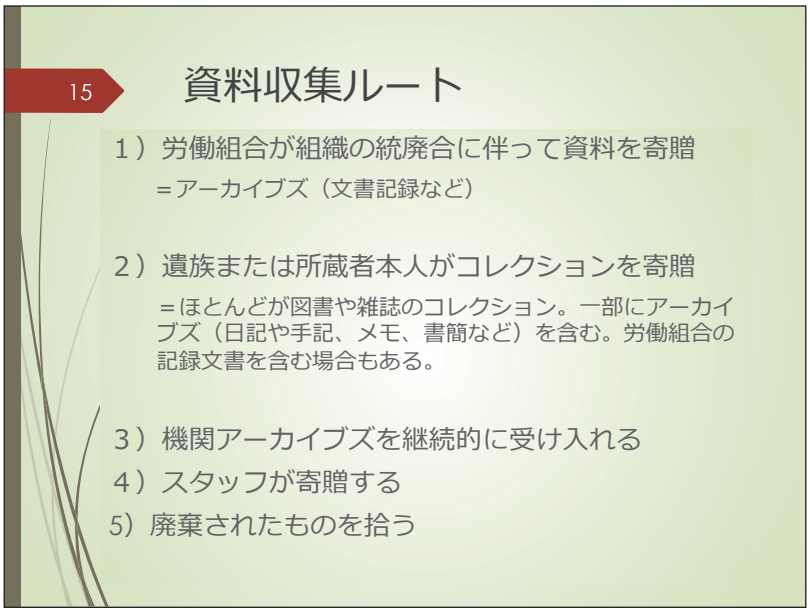
- エル・ライブラリーの場合

①労働組合の記録
（文書、電子記録、映像、写真、旗など）

②個人が収集した記録
（文書、映像、写真等）

13
NOTE BOOK
Note Book
ラクガキ肉体
SUPERFINE FOOLSCAP NOTE BOOK
雑記帳

地下水
ひの木
むぎめし
ほぐるま
むぎ
眞実の友
青雲
生活と文学
詩運動
スカッチ
だるま
ぶどうの実


15
資料収集ルート
1）労働組合が組織の統廃合に伴って資料を寄贈
＝アーカイブズ（文書記録など）
2）遺族または所蔵者本人がコレクションを寄贈
＝ほとんどが図書や雑誌のコレクション。一部にアーカイブズ（日記や手記、メモ、書簡など）を含む。労働組合の記録文書を含む場合もある。
3）機関アーカイブズを継続的に受け入れる
4）スタッフが寄贈する
5）廃棄されたものを拾う

16

アーカイブズの資料組織

- 資料組織とは、
分類して目録を採ること。

アーカイブズの世界では、
「主題分類しない」
原秩序を保持する

17

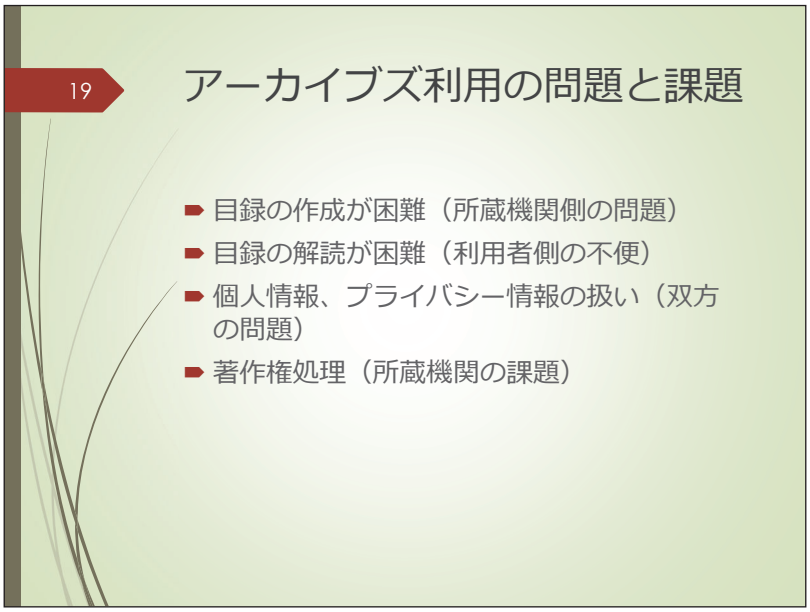
アーカイブズの活用成果

一次資料(アーカイブズ）を活用して、科研費プロジェクトを立ち上げてもらったり、デジタルアーカイブやオーラルヒストリーを作成。資料データベースの作成も。

18

所蔵資料の活用成果

プロジェクト概要	関係大学
地域資料の活用ネットワーク構築	桃山学院大学
産業映画の修復と活用	神戸大学
労働史オーラル･ヒストリー映像の構築	法政大学
幻灯（スライド）研究	早稲田大学
都市・大阪に関する文化資源・社会調査データアーカイブの構築	大阪市立大学
「大阪の社会労働運動と政治経済」研究	関西大学
講座「大阪社会労働運動史」	早稲田大学


19
アーカイブズ利用の問題と課題
目録の作成が困難（所蔵機関側の問題）
目録の解読が困難（利用者側の不便）
個人情報、プライバシー情報の扱い（双方の問題）
著作権処理（所蔵機関の課題）

（資料 1）

エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）の概要

2018 年 11 月 27 日現在

（1）基本情報

①設置母体と設立年

公益財団法人大阪社会運動協会、1978 年設立

エル・ライブラリーは 2008 年 10 月開館

②法人収支

2017 年度　収入　20,298,934 円（うち、8 割が寄付）

支出　21,505,929 円

③蔵書構成と蔵書数

・通常の図書館資料以外に、博物資料、文書資料（アーカイブズ資料）を所蔵する MLA 統合型図書館

・図書 6 万冊、新聞・雑誌 5 万点（2800 タイトル）、文書資料 200 メートル書架延長。

・収集対象年代は明治維新以来、現在まで

・閲覧室の座席数 8 席。書庫、事務所計 255㎡

・来館利用者は年間 686 人（2017 年度）、サポート会員登録数総計 896 人（有効会員 635）

④職員数

・常　勤：2 人（館長、館長補佐）。館長が司書・学芸員有資格。館長補佐が教員免許あり

・非常勤：1 人（週 2 回程度）英語サイト作成、Web サイト管理

・ボランティア：週 3 回が 1 人、週 2 回が 2 人、週 1 回が 2 人、うち 3 人が司書。

在宅 2 人（司書・学芸員 1、アーキビスト 1）、臨時ボランティア数人。

（2）利用実態

①資料別の利用者

図書・雑誌：社会保険労務士、弁護士、労働組合役員、企業の人事担当者など

研修用 DVD：企業の人事担当者など

文書資料、歴史資料：研究者、学生・院生

※大別すると、①最新情報を求めるビジネスパーソン、②アーカイブズを利用する研究者

②サービス対象者別の資料活用

・一般向け：展示会、労働法セミナー、映画上映会、幻灯会、トークイベント、有料講座など

・研究者向け：科研費プロジェクト、資料データベース構築プロジェクト等

・中小企業向け：社員研修用 DVD の貸出

③人と人を繋ぐ場として

・「大人のためのラーニングコモンズ」：夜間貸切で勉強会に利用

・saveMLAK（東日本震災復興支援活動）の毎月の会議場所として提供

・「大阪空襲被災者運動資料研究会」の資料を寄託され、研究会の場として提供

・図書館員などの「持ち込み企画」を実施して、トークイベントを開催

（3）利用者サービス

①レファレンス・サービス

独自ツール：「雑誌記事索引」をブログに毎週掲載

国会図書館の記事索引よりも細かい
ブログに掲載することによって検索サイトで上位にヒット
メールでのレファレンスにも対応

②研究支援サービス
研究テーマの提案
論文作成に必要な資料の紹介
「人」や「機関」を紹介（レフェラルサービス）

③郵送貸出
貸し出しはサポート会員に限定しているが、郵送でも可能。

(4) Web サイトで公開しているデータベースなど

① OPAC（蔵書検索）
②旗データベース
③「大阪毎日新聞」、「大阪朝日新聞」記事データベース
④労働史オーラルヒストリー・プロジェクトと音声データベース

(5) 広報活動

電子広報：メールマガジン、ブログ、Twitter、Facebook
紙媒体：リーフレット、フライヤー、ポスター
人間：大阪マラソン

(6) その他

れいこちゃん記念文庫
11 歳で脳腫瘍のため亡くなった井上玲子ちゃんを追悼する文庫。
難病とともに生きる子どもと家族を支援する NPO の情報収集・募金活動など

（資料 2）

エル・ライブラリー所蔵アーカイブズリスト

組織資料は組織解散に伴い、全資料が移管されたものと、現在継続中の移管文書がある

	タイトル（仮題）	概　　要	年　代	著者標目 / 件名標目	分　量	目　録	公開情報
組織資料	大阪総評	組合解散に伴い、事務所にあったほぼ全資料が移管された。傘下組織の機関誌等の資料は図書・雑誌として登録済み。組織アーカイブズとしては大会議案書・報告書、幹事会議事要録、発出簿などが残されている。	1951-1989	日本労働組合総評議会大阪地方評議会	書架延長 10 メートル	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能。大会議案書・報告書は OPAC で検索可能
組織資料	大阪同盟	解散時の名称は「大阪労働総同盟」。解散時に事務所にあったほぼ全資料が移管された。傘下組織の機関誌等の資料は図書・雑誌として登録済み。大会資料・書記局発出資料・写真アルバム等。	1965-1989	全日本労働総同盟大阪地方同盟 大阪労働総同盟	書架延長 10 メートル	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能。大会議案書・報告書は OPAC で検索可能
組織資料	全金大阪地方本部	1995 年の組合解散、金属機械労働組合大阪地方本部への統合に伴い、書記局発出文書など段ボール箱 26 箱分が移管された。	1949-1989	全国金属労働組合大阪地方本部	段ボール箱 26 函	準備中	当分の間、非公開
組織資料	三洋電機労働組合	2015 年の労組解散、パナソニック労組への統合に伴い、同労組本部の資料と大東支部の資料を移管。段ボール箱約 40 箱。機関紙などを除き、一般公開は 2025 年度以降の予定。	1958-2015	三洋電機労働組合	段ボール箱 40 函	目録なし	2026 年まで非公開
組織資料	JAM オムロン労働組合	2010 年の労組解散に伴い、全資料を移管された。段ボール箱約 50 箱。1978 年に「総評全国金属労働組合立石電機支部」として京都市にて発足した同労組は、2010 年 12 月に企業内組合としては解散したが、最後まで残った数名が上部団体の直轄組合員として活動を続けている。2010 年 10 月に裁判資料から看板まですべての資料がエル・ライブラリーに寄贈された。	1975 頃 -2010	JAM オムロン労働組合 全国金属労働組合立石電機支部	段ボール箱 50 函	準備中	2020 年頃まで非公開
組織資料	大阪軍縮協	書記局発出資料及び会議録等の文書資料。年度ごとにファイリングされている。大阪の平和運動、原水禁運動、反原発運動の実態がわかる資料群（複製）。	1963-1992	原水爆禁止全面軍縮大阪府協議会	49 冊	簡易目録あり	OPAC で簿冊単位の検索可能
組織資料	大和製鋼労働組合	来歴不明	1950 年代	大和製鋼労働組合	段ボール箱 1 函	目録なし	予約すれば閲覧可能
組織資料	全郵政近畿友愛会	全日本郵政労働組合（略称全郵政）が、2007 年 10 月 22 日に日本郵政公社労働組合（JPU）と統合し、日本郵政グループ労働組合（JP 労組）となった。その全郵政の近畿地方の退職者でつくる「全郵政近畿友愛会」という団体が解散するにあたり、所蔵している内部文書のほとんどすべてを 2010 年 5 月に受贈。	1965 頃 -2007 頃	全日本郵政労働組合近畿地方本部 全郵政近畿友愛会	書架延長 5 メートル。	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能
組織資料	連合大阪	民間連合の時代を含めた、連合大阪の組織文書。継続中。連合大阪の発行物のうち、図書・雑誌として登録済みのものもある。	1987-	日本労働組合総連合会大阪府連合会 全日本民間労働組合連合会大阪府連合会	書架延長 30 メートル	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能。大会議案書・報告書等は OPAC で検索可能
組織資料	労働者福祉中央協議会（電子版）	非現用文書を電子複写したものを CD-ROM で受贈。	1950-	労働者福祉中央協議会	CD-ROM3 枚	目録なし	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	中江資料	大阪社会運動協会初代理事長であり大阪総評議長であった中江平次郎の寄贈資料のうち、図書・雑誌を除いたものを指す。図書、新聞、雑誌、文書等からなる中江の膨大なコレクションは、1945 年の敗戦直後から 1990 年代に至る大阪を中心とする労働運動、社会運動、政治・経済問題を網羅している。2000 年までに図書 3637 冊、新聞・雑誌 442 タイトル、原資料 4896 点を登録した。	1946-1990 頃	日本労働組合総評議会大阪地方評議会 日本労働組合総同盟大阪連合会	書架延長 60 メートル	コレクション記述あり。一部にアイテム単位の目録あり、約 5000 点	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	辻保治コレクション：近江絹糸労働組合彦根支部関係資料	資料の大部分は、辻氏が近江絹糸に在籍していた 1953 年から 9 年間の近江絹糸労働組合運動や文化・表現運動活動、サークル活動に伴って、作成・収受されたものである。ただし、「人権争議」（1954 年）の時期の資料は少なく、争議終結後の 1950 年代の資料が大部分を占める。また、一部、辻氏が大阪で詩人として活動した時期に作成・収受した資料が含まれている。資料は寄贈当時、分類・整理されておらず、原秩序は存在していない状態であった。資料の特徴として、機関紙、同人誌等逐次刊行物、文集等小冊子資料にが多いことがあげられる。	1950-1975	近江絹糸労働組合	文書箱 4 箱	詳細あり	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	山田耕作寄贈大阪府立旭高校勤評闘争資料	大阪府立旭高校教諭を務めた山田耕作氏が寄贈した段ボール箱 2 箱分の資料。1958-1959 年の日教組の勤評闘争（勤務評定反対闘争）の資料がほとんどを占める。 B4 判クリアフォルダー 1 冊分の高校紛争資料（1969 年）を含む。	1959-1969	大阪府立旭高校 日本教職員組合 大阪教職員組合 勤評闘争 学生運動	文書箱 2 箱	目録なし	予約すれば閲覧可能

	タイトル（仮題）	概　　要	年　代	著者標目 / 件名標目	分　量	目　録	公開情報
個人コレクション	北野照雄寄贈戦後文化運動資料	北野照雄（1906-1989）寄贈。大阪でプロレタリア文化運動にかかわり、戦前戦後に活動した当時の機関紙・会議資料・ポスターなど段ボール 3 箱分。図書・雑誌・機関紙については登録済み。	1945 頃 -1955 頃	日本共産党 民話の会 民主主義科学者協会	段ボール箱 3 函	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能。一部は OPAC で検索可能
個人コレクション	河本乾次旧蔵アナキズム資料	アナキスト河本乾次氏（1898-1982）遺族寄贈による。アナキズム関係を中心に、パンフレット、機関紙誌、雑誌など。文芸書や社会思想関係の資料も多い。ノート、書簡、写真など未整理資料も多数あるが、現在までの登録点数は図書 962 冊、新聞・雑誌 174 タイトル。	1900-1982	河本乾次	段ボール箱 1 函	図書と雑誌は採録済み	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	大矢勝寄贈国労争議団資料	2016 年 10 月に段ボール箱 60 箱分を受贈。国労と弁護団と大矢勝が所蔵していた資料をまとめて受贈した。	1985 頃 -2000 頃	国鉄労働組合 国鉄清算事業団	段ボール箱 50 函	準備中	一部閲覧可能
個人コレクション	伍賀偕子寄贈総評大阪地評婦人協議会資料	大阪総評で 1965 年から 89 年までオルグを務めた伍賀偕子（1942-）寄贈による。段ボール箱 1 箱分の議案書、議事録等文書資料。	1970 年代 -1989	日本労働組合総評議会大阪地方評議会	段ボール箱 1 函	準備中	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	加藤博寄贈民社党大阪府連合会書記局資料	書記局で保管されていた資料と選挙関係の資料を書記局員であった加藤博氏より受贈。	1963-1994	民社党大阪府連合会	簿冊 80 冊	簡易目録あり	OPAC で簿冊単位の検索可能
個人コレクション	加藤博寄贈核禁大阪府民会議綴	書記局で保管されていた資料綴りを民社党大阪府連合会書記局員であった加藤博氏より受贈。	1961-1999	核兵器廃絶・平和建設国民会議	簿冊 10 冊	簡易目録あり	OPAC で簿冊単位の検索可能
個人コレクション	赤本忠司寄贈資料	当法人理事長、情報労連大阪地区協議会議長などを歴任した赤本忠司（1948-）寄贈資料。反戦運動、青年運動などの機関紙・ミニコミ。	1960-1990 頃	反戦青年委員会	簿冊 2 冊	目録なし	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	全国税資料	松井勇寄贈資料。全国税労働組合機関紙など	1960-80 年代	全国税労働組合	段ボール 1 函？	目録なし	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	巣張秀夫寄贈資料	産別金属会議役員だった巣張秀夫寄贈資料。	不明	未定	段ボール 1 函	目録なし	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	村上重雄寄贈資料	大阪交通労働組合役員、大阪労働者福祉協議会専務理事、大阪社会運動協会；理事・評議員などを歴任した村上重雄（1924-2018）寄贈資料	1960-1990 頃	大阪交通労働組合 大阪労働者福祉協議会 日本労働組合総評議会大阪地方評議会	段ボール 1 函	雑誌、図書、パンフレットは登録済み	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	濱本哲寄贈資料	自治労大阪府本部の資料。社会保障闘争関係が中心で、大阪府立病院支部での活動や社会福祉施設関係のもの	1970 年代 ～？	全日本自治団体労働組合大阪府本部			図書扱いのものは OPAC で検索可能。閲覧可
個人コレクション	久保在久寄贈資料	未定	未定	未定		目録なし	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	京大原水禁研資料	京都大学原水爆禁止問題研究会旧蔵・作成資料。在韓被爆者支援運動のミニコミ誌や会議録など。谷合が搬入。	1974-1990 頃	京都大学原水爆禁止問題研究会 韓国の原爆被害者を救援する市民の会 孫振斗裁判を支援する会 学生運動	段ボール箱 1 函？	ミニコミ、雑誌、図書、パンフレットは登録済み	予約すれば閲覧可能
個人コレクション	平坂春雄旧蔵資料（仮）	兵庫県尼崎市在住の平坂春雄氏の子息より受贈。平坂春雄著『頑張るオルグ：平坂春雄労働運動論集』などの著作がある。資料概要については調査中。	1950 -2010 頃？	全日本港湾労働組合関西地方本部	段ボール箱 170 函と、45 リットル程度の袋詰めが約 60 袋	目録なし	2018.11 受贈。利用できるようになるまで数年以上かかる見込み
コレクション	チラシコレクション	谷合佳代子が天満橋周辺等で集めたものと、連合大阪など団体から送られてきたもの	1990 頃 -		段ボール箱 2 函	準備中	予約すれば閲覧可能だが、未整理のため利用しにくい